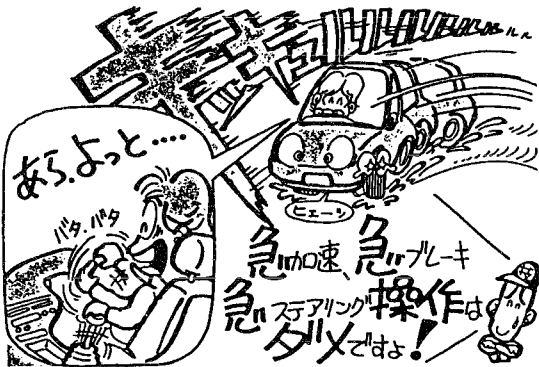




交換するには、どのサイズを選んだらいい?

サマータイヤと違い、スタッドレスは標準装着タイヤよりサイズアップしても、グリップ力は変わりません。これは、単位面積当たりの接地面圧が低くなることにより、積雪路での雪柱せん断摩擦力が下がり、グリップが弱くなるためだそうです。やはり、タイヤまわりと車のバランスなど総合的に考え併せると、その車の標準サイズのスタッドレスタイヤを選択するのがベストとなります。



◎ スパイクとスタッドレスの違いを十分実感して、スパイクと同じ使い方をしないように!

スタッドレスにも「慣らし」やトレッド面をひと皮むいてやる必要があります。その目安は、積雪していない道路を八十キロ以下で百キロほどの走行。慣らし中は、とにかく「急」のつく動作を極力さけるようにしてください。とくに、初めてスタッドレスを装着して走る人は、走行特性や制動力の変化を把握するためにも、慎重に行ってください。

冬シーズン終了後のタイヤの保管方法は、湿気が少なく、直射日光の当たらない、通気性のいい場所に、タイヤの変形させないように置くのがポイントです。ホイールに組んだ状態なら、タイヤ内の空気



慣らしの目的は、雪から車の保護方法は?

今回は、スタッドレスタイヤについていろいろ書きました。全てタイヤの専門の人から話を聞き、大切なポイントをマンガを使って説明しています。メーカーさんによれば、かなりの降雪時にも十分な性能をもっているといっています。しかし、「ピン」のついていない分、凍結時にはスパイクタイヤに少々負けるのとありますが、今後、各メーカーの技術の進歩で、より良いスタッドレスの登場が期待されるそうです。

一年後には罰金適用、使用すると十万円以下の罰金となります。(禁止地域で)

あの粉じん問題の増大がスパイク禁止へ。それだけ、粉じんによる人間への影響が確認されているのです。スタッドレスが生活環境を守ってくれる新しいもの。

スタッドレスを履いたときの走り方は?

スタッドレスタイヤを装着していれば、実用上の性能に問題はないと各メーカーはいつていますが、ミュー(タイヤと路面の摩擦係数)の低い路面で急のつく操作は避けることを徹底してほしいのです。滑らかなアクセル操作、ハンドルの操作は雪道での常識。凍結路や硬く締まった圧雪道でのスタートのコツは、タイヤに駆動力が伝わる瞬間のグリップを大切にすることです。

MT車(マニュアル車)は二速発進という方法もありますが、一速のまま、アイドリング状態で静かにクラッチを上げます。カーブ走行は、基本的に普段と同様でいいのですが、スピードは控えめに。ハンドル操作は小さく早目に切り込むのがポイントとなり、滑り始めても、落ち着いて、車の挙動を感じつつ慎重な操作で対応してください。ブレーキ操作は制動感を損なわないように!

スタッドレス タイヤ

Studless Tire って!

- スタッドレスタイヤの性能を生かす知識も知っておきましょう
- 安全で快適な雪道ドライブのために
- スタッドレスタイヤの特徴と利点について……

4月からスパイク禁止!

スパイクタイヤはいつまで使える?

凍結路を走破するためのピンを持つスパイクタイヤは、粉じん公害、道路損傷などの環境問題を抱え、ついに今年の三月限りで販売中止になります。これで、ウインタータイヤの主役は完全にスタッドレスへと移行し、スパイクは市場から姿を消すこととなります。

四月一日には、スパイクタイヤは使用禁止になり、平成四年四月一日からは、罰則規定が適用されることになっています。今からスパイクタイヤを買ったとしても三月までしか乗れず、損以外の何物でもありません。

スタッドレスタイヤは、普通、圧雪路やドライ路面での性能、居住性に関して、スパイクを上回る実力を備えています。また、最新モデルは、十分な制度性能も確保されています。スパイクからスタッドレスへ――。

今、ウインタータイヤが大きな転換期を迎えているのです。

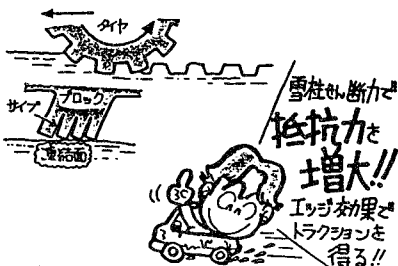


滑る雪道、しっかりとグリップを確保しよう

スタッドレスタイヤは、圧雪路や凍結路をしっかりとグリップする。なぜ、スタッドレスは雪道に強いのだろうか?

その第一の理由は、低温下でも硬化しにくいソフトなコンパウンドが採用されているからです。これにより、凍結路面にみられる凸凹の少ない氷面でも大きな接触面積を確保し、高い粘着摩擦力を得られるのです。

第二の理由は、摩擦力を高めるトレッドパターンが採用されていること。雪上では、大きなブロックパターンが雪



新しい技術や開発の傾向は?

スタッドレスのトレッドパターンは、雪上でのグリップ力を得るための大きな溝面積と、氷上での粘着摩擦力を得



を踏み固めて、その雪柱せん断力で抵抗を増したり、エッジ効果を得る。氷上では、氷面に接触するコンパウンドとともに、トレッドのブロックやサイプのエッジ部分が、路面の細かな凸凹にひっかかることによって摩擦力が得られるというわけです。

また、トレッドゴムにも、表面をザラ目状にしたり、ミクロの気泡を混入したり、特殊配合ゴムを使用したりと、特徴がみられます。

さらに新しい傾向として、氷上走行重視タイプや、少降雪地域向け専用タイプが、走行状況や行動範囲に応じて登場し始めています。

また、トレッドゴムにも、表面をザラ目状にしたり、ミクロの気泡を混入したり、特殊配合ゴムを使用したりと、特徴がみられます。

さらに新しい傾向として、氷上走行重視タイプや、少降雪地域向け専用タイプが、走行状況や行動範囲に応じて登場し始めています。